

# 一貫した英語教育の枠組み～ECF 小学校英語の在り方を考える

---

2005年11月12日 JASTEC九州沖縄支部

シンポジウム資料

ARCLE / (株)ベネッセコーポレーション

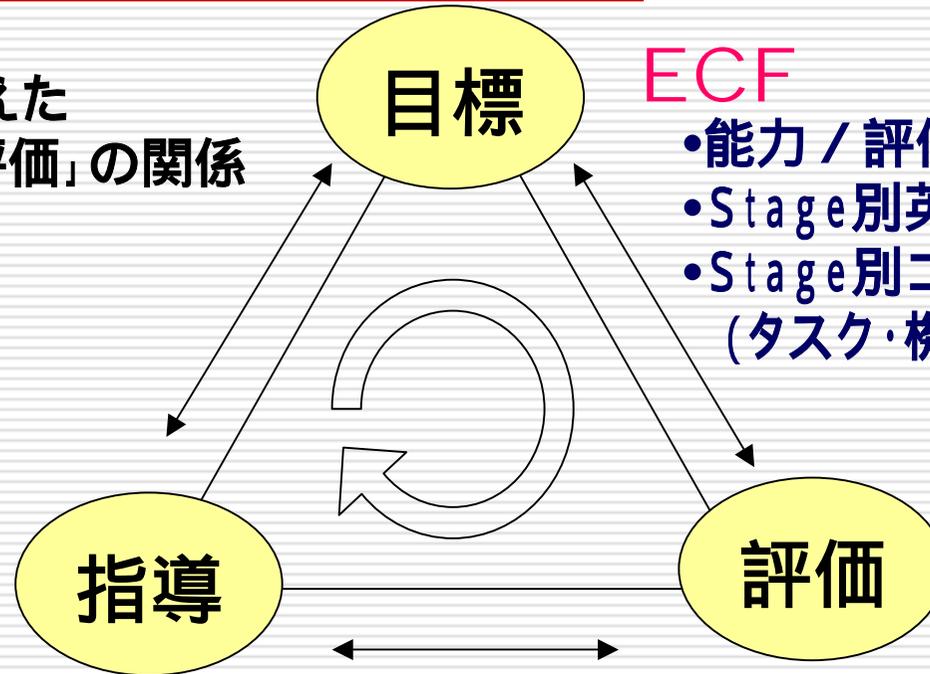
加藤由美子

問い合わせ先: [yumikato@mail.benesse.co.jp](mailto:yumikato@mail.benesse.co.jp)

# ECFとは

ECFは、「実践的に使える英語コミュニケーション能力」を幼児から成人まで一貫して育てる英語教育のための理論的な枠組み

ECFを目標にすえた  
「目標」「指導」「評価」の関係



ECF

- 能力 / 評価の観点
- Stage別英語力レベル記述
- Stage別コンテンツ・シラバス  
(タスク・機能表現・語彙集)

- 学校教育
- 在宅学習(自学習教材など)
- 校外学習(民間教室など)

- 評価規準
- Can - Do項目
- 客観テスト

# ECFが目指す「英語コミュニケーション能力」概観

21世紀のキーワード:「コトバ」による対話

多様性の中でいかに共生できるか？

多文化・多言語、個々人の考え方・生き方

たくましさ

しなやかさ

自己表現する力

自分をしっかり持ち、  
自分で考え、判断し、  
表現・行動する**独創力**

×

対話する力

他者との違いを楽しみ、  
意味の違いや関係性を  
調整する**共創力**

わかりあいのための共感

多様な価値観の違いを認め、  
理解しあうため想像力や思いやり

求められるのは、  
意味ある価値の創造！！

## ECFの「英語」のとらえ方

---

国際語としての英語



“World Englishes”

*Japanese English,*

*Spanish English,*

*Korean English...*

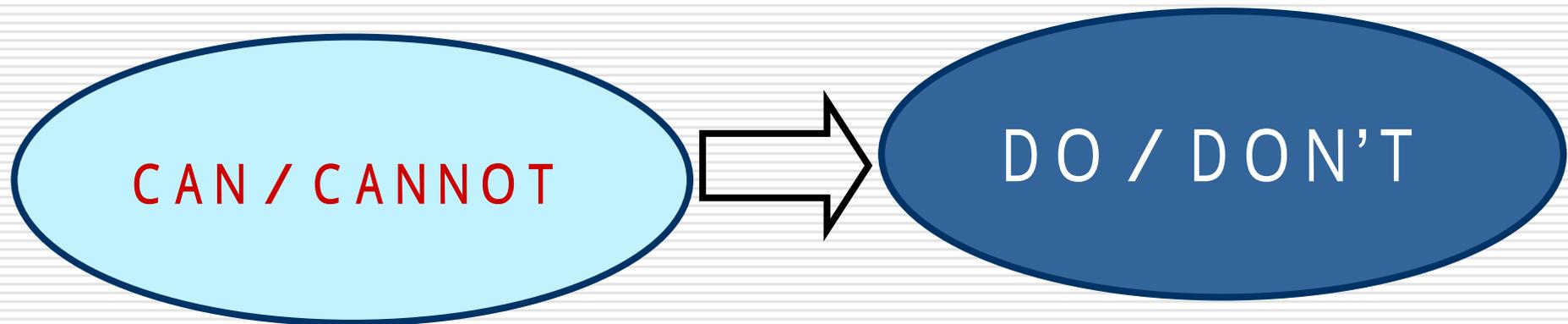
など、複数存在するものの集合

英語はそれを母語とする人達だけの財産ではなく、世界の人々の財産であることを前提に、英語の多元性を認める考え方。

# 日本人が英語を習得していくために大切なこと

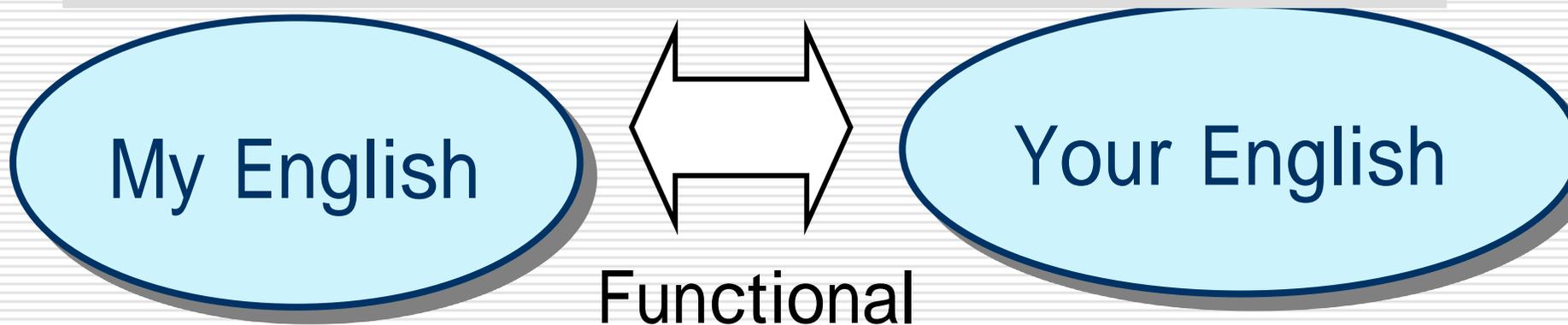
---

完璧さを目指すゆえの英語への苦手意識 × 「まず使ってみる」  
言語習得は「使うこと」によってのみ実現される  
「できる / できない」 「使う / 使わない」



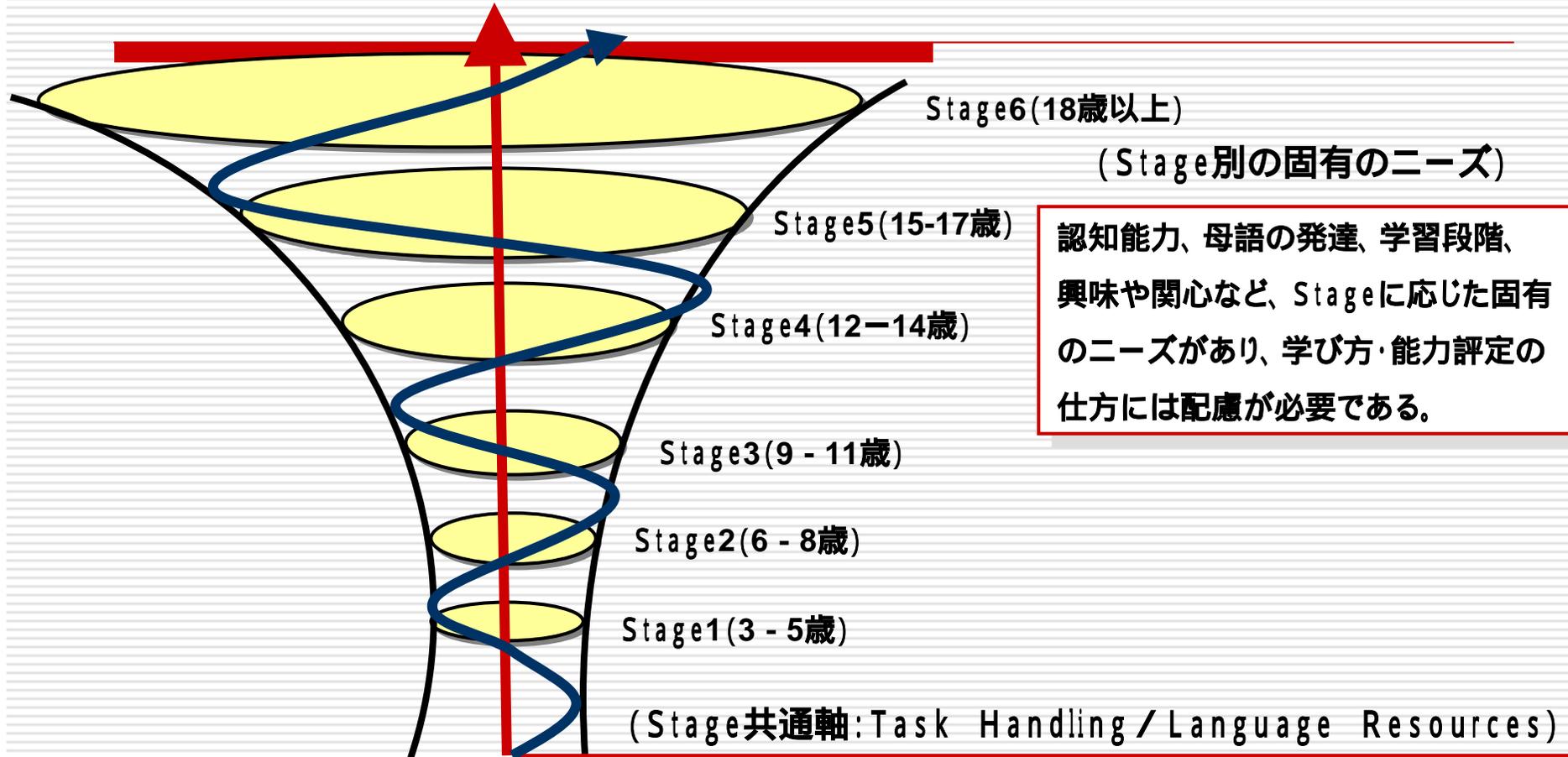
## ECFの「英語コミュニケーション能力」の定義

他者との関係において、英語を機能的に使用する力であり、  
そのためには、「たくましさ」と「しなやかさ」の実践が求められる。  
他者との関係において使用するとは、「今、ここで、私とあなたが英語を使う。」  
= My EnglishとYour Englishの意味を機能的に調整すること。



通じ合うことが大切！！

# 英語コミュニケーション能力発達の視点 ~ Spiral Communication Progress ~



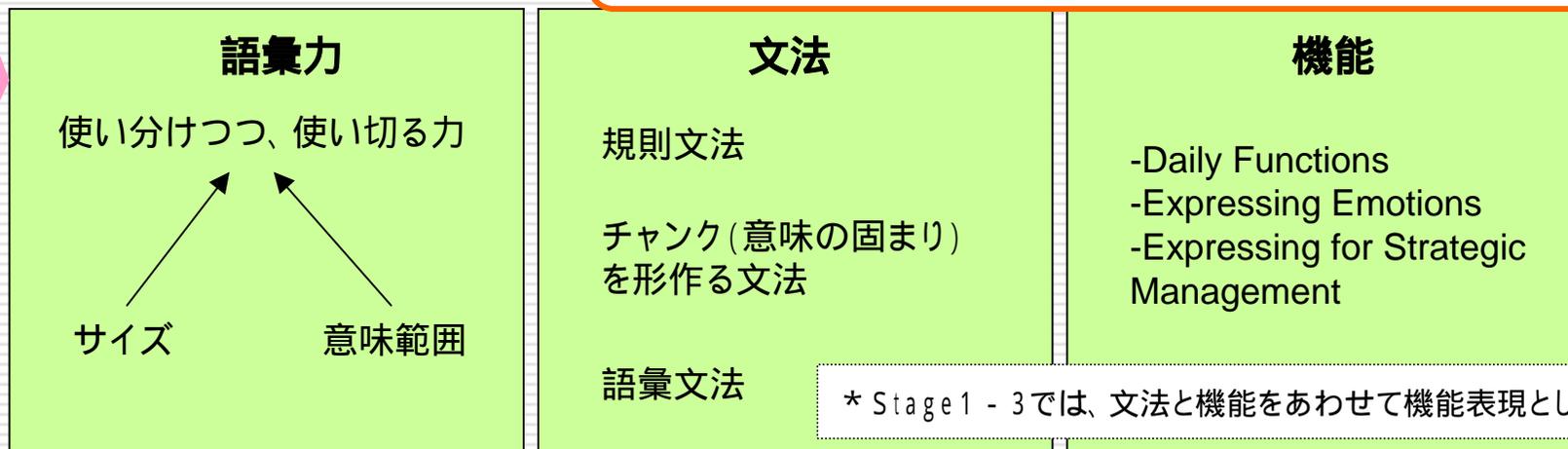
タスクを実践する際のコミュニケーション機能は、複雑さや洗練さにおいての違いはあるものの、言語行為としてみれば、年齢や発達段階に関係なく一本の共通した英語コミュニケーション能力の軸 = 尺度がある。

# 英語コミュニケーション能力の総合的な捉え方

## Task Handling



## Language Resources



意味を持ったTask の実行を通してLRが充実し、扱えるTaskのレベルも向上する。

\* Stage 1 - 3では、文法と機能をあわせて機能表現としている。

## 現状の小学校の英語教育の課題認識

---

**小学校での英語活動の目標と内容が多種多様。**

- ・何を育てようとし、何が育っているのか？
- ・こどもが興味・関心を持って学びたいこと、その発達段階で学べることを与えられているか？
- ・こどもが持っている可能性を伸ばせているか？

**小学校と中学校のカリキュラムの連携がとれているか？**

# 小学校英語教育のあり方への提言 ～ ECFの視点から～

成人になるまでを見通して、「小学校での英語教育で育てるべき」能力観・能力軸・目標をバックボーンにして、指導者育成・研修、カリキュラム設計、授業実践、評価が行われる。

## 能力観

- ・多様性の中で共生できる「たくましさ = 自己表現する力」「しなやかさ = 対話する力」
- ・World Englishesの中で、My Englishを使って共感しながら意味調整(Do)する姿勢

## 幼児～成人まで一貫した能力軸～英語力レベル記述(\*)

- ・日本の環境、発達段階(こどもの興味・関心や認知能力)、学習内容・学習量を考慮した能力記述

評価規準 / Can-Do項目

## 学習内容のバランスよい積みあがり(\*)

- ・課題解決(Task Handling)の実践
- ・語彙・機能表現(Language Resources)の習得

# 民間事業者は何をなすべきか

---

ECFの応用研究(\*)

学びの多様性の支援

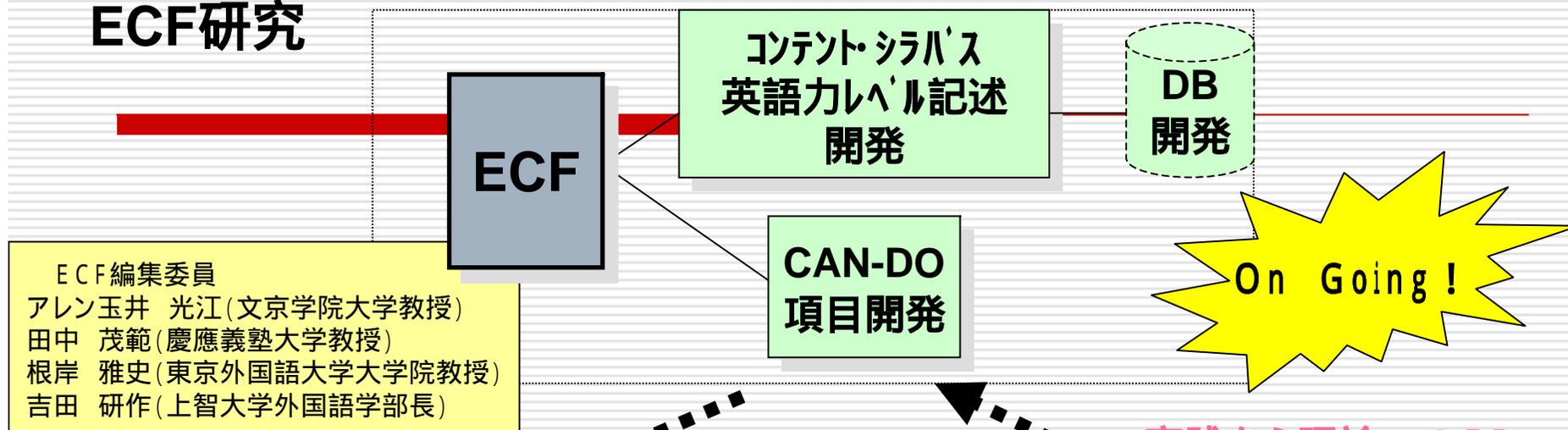
評価のための客観テスト研究

実態調査の結果発信

実証研究の成果発信

# 英語教育に関する実証的研究成果を社会に還元・発信 ～ ARCLEという継続研究の取り組み～

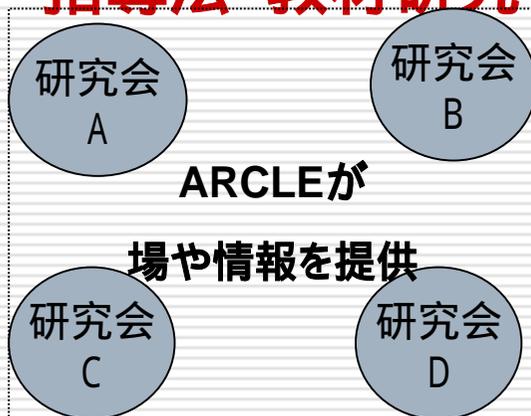
## ECF研究



実践研究のツールとして活用

実践から理論へのFB

## 指導法・教材研究



## 実践研究

(Action Research)

研究会メンバーが、  
各教育現場で実践  
データ収集

応用

FB

ARCLEが  
研究助成

実証結果を  
ARCLE紀要に掲載